

ニュージーランドスルメイカ・オーストラリアスルメイカ ニュージーランド海域

Wellington Flying Squid, *Nototodarus sloanii* & Gould's Flying Squid, *Nototodarus gouldi*



ニュージーランドスルメイカ



オーストラリアスルメイカ

管理・関係機関

資源管理：DWG が ITQ を管理、資源評価：ニュージーランド政府

生物学的特性

- 体長・体重：外套長 30 cm、体重 300 g 程度
- 寿命：1 歳
- 成熟開始年齢：約 6 ~ 8 か月
- 産卵期・産卵場：周年、主に冬；ニュージーランド南島南岸及び東岸の陸棚上（ニュージーランドスルメイカ）、南北両島間の西岸陸棚上（オーストラリアスルメイカ）
- 索餌期・索餌場：陸棚上
- 食性：中深層性 魚類、オキアミ類、いわし類
- 捕食者：海鳥類、あざらし類、さめ類等

利用・用途

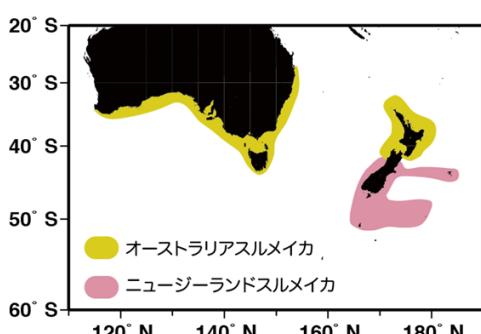
いか飯、焼するめ、刺身（塩辛を除く、日本のスルメイカと同様な加工原料）

漁業の特徴

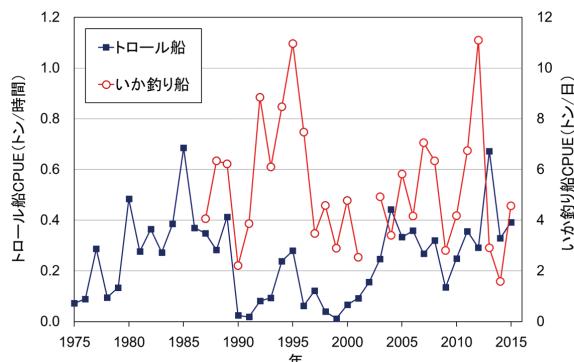
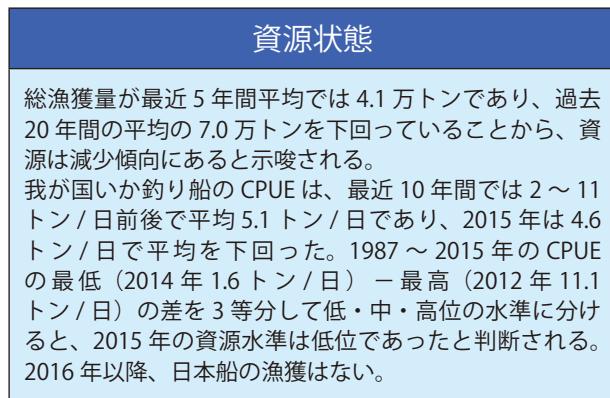
ニュージーランド海域で漁獲されるスルメイカ類の総称“ニュージースルメ”（NZ スルメ類）は、ニュージーランドスルメイカとオーストラリアスルメイカの 2 種からなる。漁業資源として 1960 年代までは未開発であったが、1970 年代から我が国により開発が進められ、1977 年から旧ソ連など諸外国も参入し、1980 年代には我が国主体に旧ソ連、台湾、韓国、ニュージーランドのいか釣り、トロール両漁業により多く漁獲されるようになった。1990 年代以降、ニュージーランド政府の規制強化等により、外国船の入漁は減少し、ニュージーランドの漁獲が増加した。2000 年代末以降は、ニュージーランドのほか、我が国と韓国がいか釣りにより漁獲している。

漁獲の動向

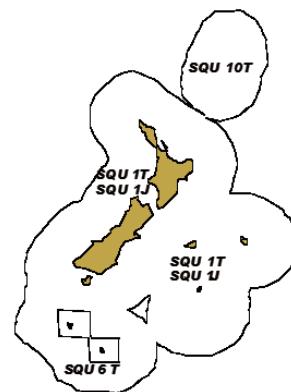
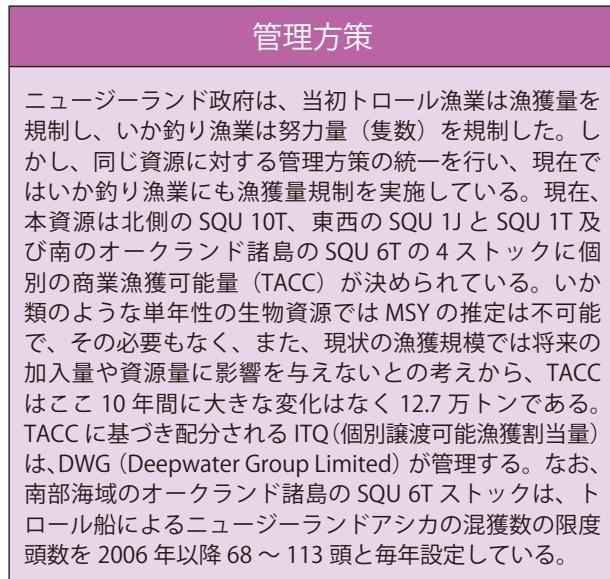
全漁業国による総漁獲量は、1970 年代の資源開発初期は我が国による 2 万トン程度であったが、諸外国が参入した 1977 年には 5 万トン以上に増加し、1980 年代は 8 万トン前後で推移した。その 6 ~ 7 割は我が国が占めた。ニュージーランド政府の外国船入漁規制強化後の 1990 年代以降 2003 年までは 3 万 ~ 12 万トンで大きく年変動して推移した。我が国漁獲量の占める割合は 2 割以下に大きく低下し、ニュージーランドの漁獲量が大部分を占めるようになった。2004 年に総漁獲量は急増して 14 万トンに達したが、それ以降は減少傾向が続いている。2014 年は約 2.4 万トンで 2017 年は 1.8 万トンと回復の兆しが見られない。



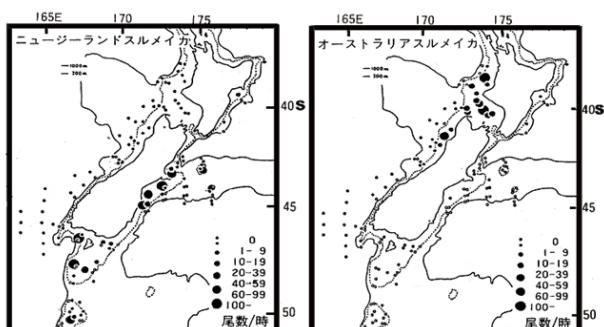
ニュージーランド海域における NZ スルメ類 2 種（ニュージーランドスルメイカ *Nototodarus sloanii* 及びオーストラリアスルメイカ *Nototodarus gouldi*）の分布域



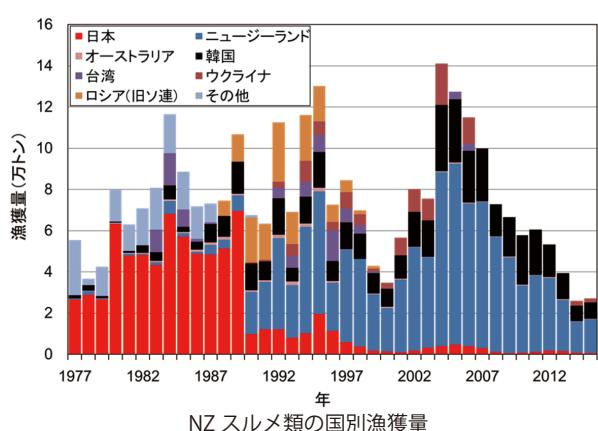
ニュージーランド海域における日本のトロール船の CPUE (トン / 時間) 及びいか釣り漁船の CPUE (トン / 日) の経年変化
2002 年 (2001/02 年) 漁期にはいか釣り漁船は出漁しなかった。



ニュージーランドの NZ スルメ類の管理海域



ニュージーランド海域における NZ スルメ類 2 種の幼イカの分布域



ニュージーランドスルメイカ類 (ニュージーランド海域) の資源の現況(要約表)	
資源水準	低 位
資源動向	減 少
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	2.6 万 ~ 6.1 万トン 最近 (2015) 年 : 2.7 万トン 平均: 4.1 万トン (2011 ~ 2015 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	689 ~ 1,789 トン 最近 (2015) 年 : 689 トン 平均: 1,289 トン (2011 ~ 2015 年)
管理目標	ニュージーランド EEZ 内の TACC: 8.2 万トン (2016/17 漁期)
資源評価の方法	不明
資源の状態	推定できず
管理措置	4 ストックに分けて、それぞれに TACC を決定
最新の資源評価年	—
次回の資源評価年	—